

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地											
専門学校 麻生リハビリテーション 大学校		平成13年3月30日		安藤 廣美		〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵3-2-1 (電話) 092-436-6606											
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地											
学校法人麻生塾		昭和26年3月12日		麻生 健		〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999											
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士										
医療	医療専門課程		言語聴覚学科			平成25年文部科学省 告示第3号	—										
学科の目的	専門学校麻生リハビリテーション大学校 言語聴覚学科は、教育基本法の本質に則り、学校教育法並びに言語聴覚士法に従い、高齢化社会、医療技術の高度化、リハビリテーションの専門化に対する人材確保の一翼を担い、医療及び保健福祉活動の充実発展に貢献するために言語聴覚士を養成する事を目的とする。																
認定年月日	平成26年3月31日																
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義		演習	実習	実験	実技									
	3 年 昼間		2985時間	1425時間	930	630時間	0時間	0時間									
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)		専任教員数	兼任教員数	総教員数										
120人		105人	0人		6人	42人	48人										
学期制度	成績表: 有 成績評価の基準・方法 学科試験、実習評価及び学習状況の総合評価とし、60点以上を合格点とする				成績評価												
長期休み	卒業・進級条件 進級および卒業に関する規程に基づいて、(進級)学則に定める当該学年の所定の科目を全て履修していること (卒業)最終学年次に履修すべき科目(実習を含む)を全て履修していること				卒業・進級条件												
学修支援等	課外活動の種類 実習病院でのボランティア 地域でのボランティア その他ボランティア				課外活動												
就職等の状況※2	主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) 医療機関・施設				主な学修成果(資格・検定等)※3		サークル活動: 有 国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)										
	就職指導内容 就職事前指導をスタートして、就職セミナー、履歴書の添削および面接指導等を個別に随時行っている。						<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>言語聴覚士</td> <td>②</td> <td>25人</td> <td>20人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	言語聴覚士	②	25人	20人
	資格・検定名	種	受験者数	合格者数													
	言語聴覚士	②	25人	20人													
卒業生数 25 人 就職希望者数 20 人 就職者数 20 人 就職率 100 % 卒業生に占める就職者の割合 : 80 %				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)													
その他 ・進学者数: 0人 ・国家試験不合格者: 5人				自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等													
中途退学の現状		中途退学者 11名 令和3年5月1日時点において、在学者108名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者97名(令和4年3月31日卒業生を含む)		中途退学率 10%		中途退学率 10%											
経済的支援制度		学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 兄弟姉妹・親子入学支援金、再進学支援金、自然災害発生に伴う支援制度 特待生制度(学力面、人物面、資格などにより優秀と認められた者に対し、授業料を減免する)		専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 前年度の給付実績者数: 7名													
第三者による学校評価		民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 ・一般社団法人 リハビリテーション教育評価機構															
当該学科のホームページURL		https://asojuku.ac.jp/arc/st/															

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

養成教育は、その時々々の社会環境により影響を受けた医療状況の変化を速やかに反映しなければならない。医療技術の進展や患者様のニーズにより広がりを見せるリハビリテーション領域の教育に企業との連携は不可欠である。

具体的には、カリキュラム作成に際して、養成教育の開始時期における動機付けのための学習や養成教育の要である臨床実習の事前・事後指導の指導に対して臨床の現場である企業からの提言を取り入れ、より現場に即した方法で、医療サービス提供のための教育内容の検討を図れる関係の構築をすすめる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、常に変化する保健・医療・福祉分野の動向を見据えて、養成校の独りよがりな教育とならないように現状に合った教育の水準を担保すべく中核となる組織である。

ここでは多角的な視野からの検討評価をもとに、今後のリハビリテーションを担う人材の育成のあり方を追求することを目的とし、教務会議の一環として年2回開催される。またこの委員会の検討をもとに、さらに下部組織としてのカリキュラム会議において、より柔軟な実践能力向上に向けたカリキュラム改善に反映されるものとする。特に各科目の習熟の集大成である「臨床実習」につながる授業の内容や「臨床実習」自体の内容や評価項目について検討し改善をおこなう。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
梶 史人	一般社団法人福岡県言語聴覚士会 理事(生活介護 風の丘)	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
栗田芳宏	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
安藤 廣美	専門学校麻生リハビリテーション大学校 校長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	
田中 裕二	専門学校麻生リハビリテーション大学校 校長代行	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	
灘吉 享子	専門学校麻生リハビリテーション大学校 校長代行 補佐	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	
星子 隆裕	専門学校麻生リハビリテーション大学校 言語聴覚士科 主任	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(7月、12月)

(開催日時(実績))

令和3年度 第1回 令和3年 7月21日 17:00～18:30

令和3年度 第2回 令和3年 12月13日 16:30～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

今年度臨床実習について、昨年度に引き続きコロナ禍の影響で学内・学外を併用しての臨床実習となった。今後の実習に関して、これまでに学習した知識や技能について次の臨床実習Ⅱにつなげていくために、教員も実習指導に参加させていただき形式での実習指導形態により、より学生の知識技能を定着させることを検討した。今後の詳細は実際に実習前に詰めていくことにした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携による実習は実習指導者の下でリハビリテーションおよび言語聴覚療法の実際を学ぶとともに、職業人・社会人としての態度を学ぶことであり、さらには、臨床実習指導者の指導の下、言語聴覚士としての心構えと基礎知識、基礎技術を臨床の場で体験し学習することである。

本校の臨床実習では、実習指導者の指導の下、診療参加させていただき多くの症例経験を通して、情報収集・評価・言語聴覚療法計画立案・言語聴覚療法実施および記録報告等の一連の言語聴覚療法を実践する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

言語聴覚学科では教育課程編成委員会において、協力病院から臨床実習方針についての意見を伺い、今年度の内容について十分議論し、実習方針を決定している。各実習指導者と担当教員による実習生への包括的な指導を行なうため、実習開始前に実習先医療機関の実習担当者との会議を行い、学校の方針や実習施設での特徴を踏まえた実習指導についての情報交換を行っている。さらに実習前には連携している実習施設より指導者を招聘し実習の在り方や内容について講演をいただき、またOSCEでは臨床実習施設の言語聴覚士の先生方から実技指導を受けている。実習期間中は担当教員が随時電話連絡を行い、期間の中間時に実習施設の訪問し、その後相互で実習進捗を確認し、その指導状況を実習生にフィードバックしていく。実習後は実習担当者会議を行い、結果報告と反省会を行い、表出した課題を次年度への計画に活かしている。

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習Ⅰ	臨床の場で、患者の評価、言語聴覚療法プログラムの作成を学び、学校で修得した理論と技術を応用し、問題解決を図る基本を学ぶことをはじめとして、病院等の組織をはじめリハビリテーション科(部)、言語聴覚士部門の運営、管理について学び、リハビリテーションチームの一員として行動すると同時に専門職としての言語聴覚士の資質を養う。	株式会社麻生 飯塚病院などの病院施設
臨床実習Ⅱ	臨床の場で、患者の評価、言語聴覚療法プログラムの作成からプログラム実施まで学び、学校で修得した理論と技術を応用し、患者のリスク管理と問題解決を図ることを学ぶ。また病院等の組織をはじめリハビリテーション科(部)、言語聴覚療法部門の運営、管理について学び、リハビリテーションチームの一員として行動すると同時に専門職としての言語聴覚士の資質を養う。	株式会社麻生 飯塚病院などの病院施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

研修については、教職員に対して、現在の職務又は今後就くことが予想される職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的として研修を受講させる。「教職員研修規程」に則り、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。年度の初めに研修計画を作成し、各教職員のスキルに適した研修が計画的に受講できるようにする。また必要に応じ、年初の計画以外の研修受講も可能としている。併せて言語聴覚療法士協会等にて専門分野の研修も同様に、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて、定期的に受講させる。この研修はその内容を他教員へ報告することで、全教員のより高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。

(1) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:「臨床研修」(連携企業等:各医療機関)

目的:臨床から離れ、永く養成教育に携わる際の臨床との隔離を防ぎ、常に最新の知識と技術を持って養成教育に当たることを目的とする。

日程:令和3年4月1日～令和4年3月31日

内容:各医療機関等において毎週1回、医療機関等の臨床現場のセラピストとともに臨床研修を行う。

対象:全教員

研修名「要介護から人生の最終段階における口腔ケア方法」(連携企業等:雪印ビーンスターク株式会社)

開催日:令和4年3月17日 参加者:小川春美

内容:基本の口腔ケアに加え、トラブル予防や看護される方への指導方法について

研修名「日本言語聴覚士協会 全国研修会」(連携企業等:一般社団法人日本言語聴覚士協会)

開催日:2022年1月30日参加者:福島 志津

内容:小児の構音障害 コロナ禍での子どもの構音発達の変化も併せて

研修名「摂食嚥下リハビリテーション学会認定試験、受験資格を得るためのEラーニング」(連携企業等:一般社団法人摂食嚥下リハビリテーション学会)

開催日:Eラーニングは年度初めから4カ月間。認定試験は2021年12月9日。参加者:八木 智大

内容:摂食嚥下リハビリテーションについての学びを医療、栄養、法律など様々な観点から深める。

研修名「国リハ式言語発達遅滞検査(改訂第4版)講習会」(連携企業等:NPO法人言語発達障害研究会)
開催日:2021年10月30日(土)11月13日(土)11月27日(土)参加者:三田智巳
内容:検査の基礎となる理論や用語の解説、教具を実際に用いたデモ、検査フォームの記録

研修名「第45回日本高次脳機能障害学会学術総会(オンライン開催)」(連携企業等:一般社団法人日本高次脳機能障害学会)
開催日:2021年12月9日・10日参加者:高津原 直樹
内容:失語症や高次脳機能障害についての様々な報告、講演。

研修名「第10回日本語聴覚士協会 九州地区合同学術集会 福岡大会」(連携企業等:一般社団法人日本語聴覚士協会 一般社団法人福岡県言語聴覚士会)
開催日:2022年1月29日(土)・30日(日)参加者:灘吉享子
内容:特別支援教育とSTの関わり方についてシンポジウムを通して提言をまとめました

研修名「第34回・35回合同標準ディサースリア検査(AMSD)講習会(Webセミナー)」(連携企業等:日本ディサースリア臨床研究会)
開催日:2021年11月5日(金)～11月8日(火)参加者:潮崎桃子
内容:運動障害性構音障害の標準化された評価方法である標準ディサースリア(AMSD)の具体的な実施方法や評価のポイントが紹介された。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会」(公益財団法人医療研修推進財団)
開催日:令和3年8月16日～9月4日 参加者:小川春美
内容:教員の高度な知識や技能についての研修があった

研修名「第10回日本語聴覚士協会 九州地区学術集会」(連携企業等:一般社団法人日本語聴覚士協会 一般社団法人福岡県言語聴覚士会)
開催日:2022年1月29日 参加者:福島 志津
内容:学業に困難を抱える学生への支援のとりくみについての発表を聴講

研修名「行動観察実践」(連携企業等:株式会社オービス総研)
開催日:令和3年11月29日、12月7日 参加者:星子 隆裕
内容:行動観察から需要を導き出す。新しいサービスを発掘する、ひとつの手法を体験的に学習した。

研修名「GCB研修」(連携企業等:麻生塾)
開催日:2021年4月10日 参加者:八木 智大
内容:GCB講座の授業内容や指導方法について学ぶ

研修名「「学習障害への多職種アプローチ ～当センターにおける試み～」」(連携企業等:NPO法人言語発達障害研究会)
開催日:2021年5月23日 参加者:三田智巳
内容:学習障害の概要、当センターにおける多職種アプローチから学校連携についての試み

研修名「令和3年度新任教員研修会」(連携企業等:一般社団法人福岡県専修学校各種学校協会)
開催日:2021年8月3日(火)～5日(木) 参加者:潮崎桃子
内容:専修学校の教育目的、専修学校のキャリア教育について、汎用的能力・非認知能力について

(2)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:高齢者における高次脳機能障害(連携企業等:公益社団法人石川県言語聴覚士会)
開催日:令和4年8月20日 参加者:小川春美
内容:認知症も含めた高齢者の高次脳機能障害の対応について

研修名「日本吃音・流暢性障害学会 第10回大会」(連携企業等:日本吃音・流暢性障害学会)
開催日:2022年9月3・4日 参加者:福島 志津
内容:吃音と流暢性障害に関する教育講演および演題発表(小児分野中心に参加予定)

<p>研修名「聴能訓練の実習」(連携企業等:帝京大学医学部附属溝口病院) 開催日:未定参加者:星子 隆裕 内容:文章追唱法の聴能訓練の実際を学ぶ</p>
<p>研修名「第28回摂食嚥下リハビリテーション学会 学術大会」(連携企業等:一般社団法人摂食嚥下リハビリテーション学会) 開催日:2022年9月23日・9月24日参加者:八木 智大 内容:本年度大会テーマ『摂食嚥下に関わるSDGs』</p>
<p>研修名「新版K式発達検査講習会初級プログラム」(連携企業等:京都国際社会福祉センター) 開催日:2022年7月15日～17日 参加者:三田智巳 内容:新版K式発達検査を使用する為の初級講習会として、レポートを提出したりプロフィールを書いたり実技をする。</p>
<p>研修名「第46回日本高次脳機能障害学会学術総会」(連携企業等:一般社団法人日本高次脳機能障害学会) 開催日:2022年12月2日(金)～12月3日(土)参加者:高津原 直樹 内容:感じる高次脳機能</p>
<p>研修名「日本語聴覚士協会 九州地区学術集会 熊本大会」(連携企業等:一般社団法人日本語聴覚士協会 九州地区言語聴覚士会) 開催日:2023年1月28日(土)・29日(日)参加者:灘吉享子 内容:これから社会に果たすべき言語聴覚士の役割について考える</p>
<p>研修名「MTPSSEの理論と技法」(連携企業等:学研ナーシングセミナー) 開催日:2022年8月1日～8月26日配信参加者:潮崎桃子 内容:高齢者の発話と嚥下の運動機能向上プログラムについて</p>
<p>②指導力の修得・向上のための研修等</p>
<p>研修名「アサーティブコミュニケーション」(連携企業等:組織デザインラボ) 開催日:令和4年8月17日 参加者:小川春美 内容:不快感や当惑を感じる状況下での適切なコミュニケーション方法、対応を学ぶ</p>
<p>研修名「感情のコントロール」(連携企業等:有限会社ヒューマン・ギルド) 開催日:2022年8月26日 参加者:福島 志津 内容:未定 オンライン研修</p>
<p>研修名「授業におけるファシリテーション(対面授業編)」(連携企業等:株式会社ONDO) 開催日:2023年3月15日 参加者:八木 智大 内容:対面授業でのファシリテートを学ぶ</p>
<p>研修名「コーチング実践～多欠席学生対応編～」(連携企業等:組織デザイン・ラボ) 開催日2022年9月7日参加者:三田智巳 内容:多欠席学生に対応するための実践的な指導力アップのための講座</p>
<p>研修名「第35回教育研究大会・教育研修会」(連携企業等:一般社団法人全国リハビリテーション学校協会) 開催日2022年10月29日(土)・30日(日)参加者:高津原 直樹 内容:ニューノーマルにおけるリハビリテーション教育の探求</p>
<p>研修名「コーチング実践 言動改善対応編」(連携企業等:組織デザイン・ラボ) 開催日:2022年12月7日(水)参加者:灘吉享子 内容:コーチングの実戦についてよい表出の仕方を学ぶ</p>
<p>研修名「アサーティブコミュニケーション」(連携企業等:組織デザイン・ラボ) 開催日:2022年8月17日(水) 参加者:潮崎桃子 内容:不快感や当惑を感じる状況下での適切なコミュニケーションの方法を学び、学生及び保護者対応に活かす。</p>

研修名「授業におけるファシリテーション オンライン授業編」(連携企業等:株式会社 ONDO)
 開催日:2022年8月31日(水) 参加者:潮崎桃子
 内容:アクティブラーニングに必要なファシリテーションの手法を知り、学生の主体的な学びにつなげる。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。

また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2)学校運営	運営方針、事業計画、人事・給与規程、業務効率化、他
(3)教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、他
(4)学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他
(5)学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他
(6)教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7)学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8)財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、他
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他
(11)国際交流	留学生の受入れ、支援体制

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

自己評価と合わせて、コロナ禍での遠隔授業の取り組みについて説明した。委員より遠隔授業への切り替えによる学習面への影響を心配するご意見を頂いた。

委員会でいただいた意見を踏まえ、遠隔での講義・試験における運営面での更なる工夫だけではなく、遠隔での学生相談などが可能な環境づくり、学習サポート体制づくりに取り組んだ。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
西村 天利	平成18年度 理学療法学科卒業生	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(任期2年)	卒業生
小波 昌之	地域住民	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(任期2年)	地域住民
久保田 勝徳	公益社団法人福岡県理学療法士会 理事(福岡桜十字病院)	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(任期2年)	企業等
黒木 勝仁	公益社団法人福岡県作業療法協会 理事(原三信病院)	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(任期2年)	企業等
柁 史人	一般社団法人福岡県言語聴覚士会 理事(生活介護 風の丘)	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(任期2年)	企業等
中村 太	作業療法学科保護者	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(任期2年)	PTA
井本 俊之	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 技師長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(任期2年)	企業等
杉野 晴一	福岡県立筑豊高校 校長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(任期2年)	高等学校

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (ホームページ)

<https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/arc/2021/hyoka.pdf>

公表時期:令和4年5月18日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念、教育目標、ASOの考え方、5つの特徴
(2)各学科等の教育	入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、カリキュラム、国家資格、就職情報
(3)教職員	教員一覧及び実務家教員科目
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、学園祭、部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6)学生の生活支援	生活環境サポート、(留学生学習・生活サポート)、(留学生就職サポート)
(7)学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援(各種支援制度)
(8)学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書
(9)学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	グローバル教育
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
(ホームページ)

URL: <https://asojuku.ac.jp/arc/>

授業科目等の概要

(医療専門課程言語聴覚学科) 令和4年度																
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携	
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
1	○		統計学	統計学は、実験で得られたデータを客観的に解釈するために必要な知識である。本講義では、統計学で用いられる様々な分析方法を学ぶとともに、実際にデータを用いて分析してもらいます。本講義終了時には、基本的な統計学の知識・技術を皆さんが身に着けていることが目標である。	1 前	30	1	○			○			○		
2	○		解剖学	基本的な解剖学用語を学ぶ。人体を構成する細胞・組織・器官系の概要、特に言語聴覚士として理解が必要とされる構造を学習する。人体各部の構造を機能と関連付けて理解する。	1 前	30	1	○			○				○	
3	○		生理学	人体についての基礎知識は医療に携わるひとには欠かせない。生理学は、人体の生命現象の仕組み（機能）を理解するための学問であり、医学の中で、最初に学ばねばならない基礎中の基礎となる科目である。本講義では、人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを学習する。さらに、人体の正常な機能の知識に基づいて、病気のなりたちを理解していく。	1 前	30	1	○			○				○	
4	○		言語聴覚臨床の基本	言語聴覚障害の特性と種類、言語聴覚士の役割・専門性および言語聴覚療法の基本概念を修得する。	1 前	30	1		○		○			○		
5	○		生涯発達心理学の理論	出生後から老年期までの発達の様子と発達理論を理解する。	1 前	30	1	○			○			○		
6	○		基礎音声学	私たちは普段人と話をする際、「音声」を媒介にしてコミュニケーションを行っています。音声に対する理解を深めることは臨床現場において有益なものであると言える。この授業では、発音、知覚、物理の3つの側面に関する音声の知識を身につけると同時に、実践練習を積むことで音声を扱えるようになることを目指す。	1 前	30	1	○			○				○	
7	○		音響学	①音の物理的性質およびその性質を量的に表現する様々な単位について学ぶ ②電気音響理論の基礎的事項について学ぶ ③音声の生成、分析・合成に関する基礎的事項を学ぶ	1 前	30	1	○			○				○	
8	○		知的障害・脳性麻痺・後天性障害の理解	知的障害・脳性麻痺・後天性障害の基本的概念と知識を習得する。 知的障害・脳性麻痺・後天性障害の順に学習し、それぞれの関連を学ぶ。	1 前	30	1	○			○				○	
9	○		失語高次脳機能障害の理論 総論	失語症及び高次脳機能障害関しての基本的知識について学ぶ。 失語症を含めた高次脳機能障害の種類や脳損傷領域との関連についての知識を習得する。	1 前	30	1	○			○			○		

(医療専門課程言語聴覚学科) 令和4年度																
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携	
								講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
必修	選択必修	自由選択														
10	○		社会人基礎力 I (GCB I)	「人間性・人格の成長」を目標に、DVDや記事を活用してクラス内での話し合いや発表を行います。GCB Iでは、組織の中で生きていくうえで重要なマナーと協力（協働）、「感謝と思いやり」について学ぶ。また、気づいたこと、感じたこと、学んだことを書き出し、積極的に表現していく。	1前	30	1	○			○		○			
11	○		社会福祉学	社会福祉を様々な角度から理解し、医療人として必要な社会福祉の知識と援助方法を身に付ける。	1前	30	1	○			○			○		
12	○		情報処理	Word・Excel・PowerPointのアプリケーションソフトの基礎的な操作を学習し、レポート・発表会資料等の作成時に活用することができる。文章の入力に関して、5分間で200字以上（3級レベル）の文字入力ができる。	1前	30	1	○			○			○		
13	○		英語 I	職場において外国からの患者さまにも苦手意識なく接することができるよう、英語の表現を学ぶ。	1前	30	1	○			○			○		
14	○		保健体育(実技)	身体を単純に動かすだけでなく、楽しみながら動かす体験を積みこむことにより、運動法・パフォーマンス・他者に対して理解しやすい伝えかたなどを養う。またグループでオリジナルの運動方法を創作することにより、組織作業を模擬体験し、組織力や企画・創造・応用力を養うことを目標とする。	1前	30	1			○	○				○	
15	○		聴覚系医学	言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修する上で基礎となる人体のしくみ・疾病と治療に関する知識・技能・態度を修得する。	1前	30	1	○			○		○			
16	○		神経系医学	中枢神経系のしくみの基礎を理解しアウトプットできる。障害の基礎を理解しアウトプットできる。国家試験の問題が解けるようになる。	1前	30	1	○			○				○	
17	○		心理学	医療従事者として患者の心や治療者の心の動きを理解するために必要な、心理学の基本的な考え方と基礎知識を習得する。	1前	30	1	○			○				○	
18	○		基礎言語学	言語聴覚士として臨床の現場で活躍する際に、最低限必要な言語学的な知識の習得を目指す。具体的には、音声、形態、統語の3分野に関する基礎的な知識を身に付けてもらいたい。今後、構音障害や言語発達上の要支援者の症例に関する研究を理解するときの基になる考えに慣れてほしい。また、随時、各項目の国試対策の折り込んでいく。	1前	30	1	○			○				○	

(医療専門課程言語聴覚学科) 令和4年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
19	○		聴覚障害の理解	聴覚障害および関連障害に関する基本的概念と知識を修得する。人間の認知やコミュニケーション活動における「聴覚機能」の重要性を理解する。聴覚障害がもたらす問題や支援の原則などについて説明できるようになる。また、聴力レベルを理解し、模擬的に評価することができるようになることを目指す。	1前	30	1	○			○		○		
20	○		精神医学	精神医学の一般の知識、個々の疾患の精神病理、臨床像、医療について、医療従事者として最低学ばなければならない事柄を身につける。	1後	15	1	○			○		○		
21	○		形成外科学	顔面や皮膚の成り立ちと顔面・皮膚疾患について知るとともに、構音や摂食・嚥下の正常な状態を理解し、それらの病的な状態を把握できるようにする。	1後	15	1	○			○		○		
22	○		生涯発達心理学の演習	出生後から幼児期までの発達の様子を理解する。保育所見学で実際の子どもの様子を観察し、発達表を作成する。	1後	15	1	○			○		○		
23	○		聴覚心理学	音響学における音響心理の基礎的事項を学ぶと共に聴覚の役割を理解する。	1後	15	1	○			○		○		
24	○		発達障害・SLIの理解	発達障害（自閉症スペクトラム障害、学習障害、注意欠如/多動性障害）、特異的言語発達障害の基本的概念と知識を習得する。自閉症スペクトラム障害・学習障害・意欠如/多動性障害のそれぞれの関連を学ぶ。	1後	15	1	○			○		○		
25		○	地域リハビリテーション論	言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修する上で基礎となる社会福祉、リハビリテーションに関する基本的知識を修得する。	1後	15	1	○			○		○		
26	○		耳鼻咽喉科学	言語聴覚士に必要な耳科学、鼻科学、咽喉科学、頭頸部外科学の知識を臨床的側面に重点を置いて理解してもらう。	1後	30	1	○			○		○		
27	○		失語高次脳機能障害の展開総論	失語症と高次脳機能障害の評価や訓練に関する基礎知識を習得する。失語症や高次脳機能障害のリハビリテーションにおける職種連携について学ぶ。失語症や高次脳機能障害関連の文献抄読を通して、言語聴覚療法における訓練・指導・支援や地域社会とのかわりについて考える。	1後	30	1	○			○		○		

(医療専門課程言語聴覚学科) 令和4年度																	
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
28	○			英語表現	幅広い年齢層と接する際のコミュニケーションツールに歌を用いる事が出来る様に童謡・唱歌・抒情歌・懐メ・ポップスを中心に歌唱練習。コミュニケーションゲームを授業の導入に使い、羞恥心を捨て・他人に優しい、気遣いの出来る神経を育てる。「わらべ歌」や「手話」を歌いながら手遊びする。呼吸法やストレッチで体の筋肉の使い方を学ぶ。自己アピール発表会の場を設け、クラス全体でプログラム作りから、企画・構成を考え、開催する。クラス全体のコミュニケーション作りも学ぶ。	1後	30	1	○			○			○		
29	○			社会人基礎力Ⅱ (GCBⅡ)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としてのコミュニケーション技能を高めるために、マナーと協働についての知識を習得する。 ・授業内のグループ活動に臨み、場面に応じて自分の考えや意見を言語化できるようになる。 ・先人の生き方や人生への取り組み方について学び、人生を生き抜くことの大切さと素晴らしさを学ぶ。 	1後	30	1	○			○		○			
30	○			医学英語	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の基礎から学び、英語に対する苦手意識を払拭する。 ・短めの質問文に対し、基本的な答え方を身につける。 ・質問に答えられるようになったら、会話らしく相手に質問する。 ・簡単な自己紹介や対話など、具体的に日常の場面をイメージしながら、トレーニングする。 	1後	30	1	○			○			○		
31	○			保健体育(理論)	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢制御について理解し呼吸や発声とのかかわりについて考えることができる。 ・医療従事者としての態度や自己管理能力について考え、自分なりの考えを持つことができる。 ・チームアプローチについて理解し他者を尊重した行動がとれるようになる。 	1後	30	1		○		○				○	
32	○			解剖学演習	医療に携わる者は人体の構造を理解しておく事は重要である。人体を構成する器官系の大要、特に言語聴覚士として理解が必要とされる構造を機能と関連付けて学習する。	1後	30	1		○		○				○	
33	○			生理学演習	本講義は実習をまじえながら、生理学の講義で学んだ生理学の知識をより深いものにすることを目標にする。講義を受け教科書で勉強した知識は、実習の実験によって実際に体験することによって、本当の知識として身につけることができる。さらに、実習によって生理機能を計測し、実験データを処理し解析して、レポートを作成する方法を学ぶ。	1後	30	1		○		○				○	

(医療専門課程言語聴覚学科) 令和4年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
								講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
34	○		病理学	基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きを習得した上に位置する病態学は、病気の原因や病態を知るため、様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになることを最終目標とする。細胞の機能の理解や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになることを目的とする。	1後	30	1	○			○			○	
35	○		臨床神経科学	言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修するうえで臨床神経科学に関する知識、技能、態度を習得する。	1後	30	1	○			○			○	
36	○		臨床歯科医学・口腔外科学	歯科疾患や口腔疾患の病態を理解し、口腔機能障害に対する歯科的治療法を学び、歯科医師と言語聴覚士との協働・連携および多職種におけるチーム医療について学ぶ。	1後	30	1	○			○			○	
37	○		呼吸発声発語系医学	言語聴覚士に必要な呼吸機能に関わる、解剖の知識を修得し、そのメカニズムについて結びつけることができる。そして、基本的な意識をもって、呼吸リハビリテーションについて考える基礎をつくる。	1後	30	1	○			○		○		
38	○		応用音声学	私たちは、普段人と話をする最、「音声」を媒介にしてコミュニケーションを行っています。前期で学んだ音声学の基礎をふまえて、後期は特に音韻論の観点から日本語の音声を考えていきます。	1後	30	1	○			○			○	
39	○		言語発達学	小児の言語発達について学習し、前言語期から学童期以降までのコミュニケーション行動や言語発達の過程を理解する	1後	30	1	○			○		○		
40	○		小児聴覚障害の診断	聴覚障害および関連障害に関する基本的概念と知識を修得する。	1後	30	1	○			○			○	
41		○	臨床技術学 I	・ 言語聴覚療法の実践を理解するために、病院見学や演習を通して臨床での言語聴覚士の仕事を学ぶ。 ・ 言語聴覚療法の臨床現場の概要について学び、STの役割を説明できるようになる。 ・ 1日見学を通して、観察した事項を文章表現できる。	1後	30	1	○			○		○		
42		○	画像診断学	脳画像の読影のための基本的知識と共に、脳血管の環流についても説明する。また、国家試験問題の解説を行う。	2前	15	1	○			○		○		

(医療専門課程言語聴覚学科) 令和4年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
43	○		摂食嚥下障害の理解	摂食嚥下障害について基本的な概念を学びます。また、摂食嚥下障害によって引き起こされる合併症や関連障害が私たちの生活に与える影響について具体的に想像できるだけの知識を獲得する。嚥下障害や関連障害に対する訓練や支援方法を立案する為に、病態の評価方法や基本的技法を説明できるようにする。	2前	30	1	○			○		○		
44	○		医学論文	・医学論文の検索に慣れ、スムーズに検索システムを活用することができるようになる。 ・日々の学習において理解を深めるために医学論文を活用できるようにすることを目標とする。	2前	30	1	○			○		○		
45	○		障害児教育学	言語聴覚障害および言語聴覚障害臨床について、学習する上で基礎となる教育に関する知識・技能・態度を習得する。	2前	30	1	○			○		○		
46	○		医学総論	医療従事者の一員として医学の歴史を学び、医学の成り立ちについて理解することを目指す。リハビリテーションにおける全人的尊重の理念を理解するために、ICFや死について理解を深め、個別な対応の必要性を認識することを目指す。	2前	30	1	○			○		○		
47	○		内科学(老年医学含む)	・言語聴覚療法実施において不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。 ・言語聴覚療法に関わる障がいや、どのような疾患から起因するかを知る。 ・内科疾患の成り立ちを知ること、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・内科疾患の症状を理解することで、言語聴覚療法治療上でのリスク管理を理解する。	2前	30	1	○			○		○		
48	○		リハビリテーション医学/一般臨床医学	リハビリテーション医療の役割について理解し、その構造を把握する。 また、リハビリテーション医学における関係職種との役割について把握し、チームアプローチの重要性を理解する。	2前	30	1	○			○		○		
49	○		臨床心理学	臨床心理学の基礎理論を学ぶことを通して、人の心のしくみ、および心の問題について理解する。さらに、代表的な心理アセスメント、心理療法について学習し、臨床心理学的な支援の具体的方法について知り、理解する。 実践的プログラムを通して理解を深める。 また、卒業後の現場において臨床心理学を活かしていけるために、他者とのかわりや自分自身についての思考・感情・言動をふりかえり、理解する視点をもつ機会とする。	2前	30	1	○			○		○		

(医療専門課程言語聴覚学科) 令和4年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
50	○			学習認知心理学の理論	高次脳などに深く関わる人の認知を理解する。	2前	30	1	○			○			○	
51	○			失語症の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な失語症についての定義、知識を習得する。 ・ 失語症古典的分類におけるそれぞれの特徴を把握し、鑑別する。 ・ 言語症状を認知神経心理学的モデルにあてはめて考え、その発現機序を説明する。 ・ 総合的失語症検査 (SLTA) をマニュアルを見ながら実施する。 	2前	30	1	○			○		○		
52	○			高次脳機能障害の理解	高次脳機能障害における評価の手順（観察を含む）を組み立てることができる。神経心理検査の使い方を確認し、各領域の検査概要を覚える。特にコース立方体組み合わせテスト、レーブン色彩マトリシス検査、改訂長谷川式簡易知能評価スケール（HDS-R）、Mini-Mental State Examination（MMSE）については確実に実施できるようになる。その他の高次脳機能障害の検査についても、概要を理解し、実施するための知識を身に付ける。国家試験対策のため、小テストの解説を覚え、アウトプットできる。	2前	30	1	○			○		○		
53	○			ASD・ADHDの展開	ASD・ADHDに対する言語聴覚療法の評価診断、および言語治療（指導・支援）に関する知識、技能、態度を習得する。	2前	30	1		○		○		○		
54	○			機能性構音障害の理解と展開	機能性構音障害の基礎知識、構音検査の実施と分析方法を習得する。系統的構音訓練の枠組みを知り、立案。実施。計画を実践できる力を身につける。関連部にやの理論的背景、エビデンスに基づく臨床思考を身につける。	2前	30	1		○		○			○	
55	○			運動障害性構音障害の理解	1) 構音運動のメカニズムについて理解し説明できる。 2) 構音障害の特徴について理解し、運動障害性構音障害の診断と分類ができる。 3) 言語聴覚士に必要なふるまいやコミュニケーション態度、学習能力の基礎を築き、個人の課題を具体的にみつけることができる。	2前	30	1	○			○		○		
56	○			成人聴覚障害の診断	聴覚障害に対する言語聴覚療法の評価診断および言語治療に関する知識・技能・態度を修得する。	2前	30	1		○		○		○		
57	○			小児聴覚障害の支援	聴覚障害に対する言語聴覚療法の評価診断、言語治療に関する知識・技術・態度を修得する。	2前	30	1		○		○			○	
58	○			知的障害の展開	知的障害児に対する言語聴覚療法の評価診断、および言語治療（指導・支援）に関する知識、技能、態度を習得する。	2前	45	1		○		○		○		

(医療専門課程言語聴覚学科) 令和4年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
59	○			失語症に關連する検査、評価、訓練について実技演習を通して学び会得する。前期に習った範囲を含む、失語症全般についての知識を習得する。	2後	45	1	○			○		○		
60	○			ものの見え方、聞こえ方、記憶、そして発達や知能、学力などの人の「心理」を測るとはということなのかを学ぶ。また、心理測定法を言語聴覚療法にどう活用していくのかを考える。	2後	15	1	○			○			○	
61	○			脳性麻痺・後天性言語発達障害に対する言語聴覚療法の評価診断および指導・支援に対する知識・技能・態度を修得する。	2後	15	1	○			○			○	
62	○			聴覚障害および関連障害に関する基本的概念と知識を修得する。	2後	15	1	○			○			○	
63	○			リハビリテーション本来の意味や理念を歴史的背景から学習し、リハビリテーション医療の対象や関わる職種、評価・治療手段を理解する。	2後	30	1	○			○			○	
64	○			胎児・新生児・乳幼児・小児期から思春期にかけての疾患・病態、検査、治療についての基本的概念を習得する。	2後	30	1	○			○			○	
65	○			人間の認知の理解を深める。自分たちの認知過程を実習など通して理解する。	2後	30	1	○			○			○	
66	○			言語聴覚療法の評価診断の基本的概念・技能・態度を修得する。	2後	30	1	○			○			○	
67	○			音声治療に携わる言語聴覚士に必要な条件(臨床に対する考え方、耳鼻咽喉科その他の医師との連携、言語聴覚士としての能力)を理解する。音声治療の実際について学ぶ。	2後	30	1	○			○			○	
68	○			小児の言語障害で大きな比重を占める構音障害のうち、器質性構音障害(主に口蓋裂)について学ぶ。器質性構音障害の基礎知識、具体的な検査、指導訓練の基礎を身に付けることを目標とする。	2後	30	1	○			○			○	
69	○			吃音の基礎知識や臨床に必要な基本的技能について学習する。	2後	30	1	○			○			○	
70	○			聴覚障害に対する言語聴覚療法の評価診断および言語治療に関する知識・技能・態度を修得する。	2後	30	1	○			○			○	

(医療専門課程言語聴覚学科) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
71	○		臨床技術学Ⅱ	1. 言語聴覚療法の目的における検査・評価・診断の流れを説明できる。 2. あらゆる要因を加味した、言語病理学的診断における根拠を統合して説明できる。 3. それぞれの病態や背景にあわせた、治療目標および計画を立案しその根拠について説明できる。 4. OSCEの実施により、具体的な臨床像を念頭においた取り組みの必要性を理解し説明することができる。	2後	30	1		○		○				
72	○		高次脳機能障害の展開	高次脳機能障害の検査や訓練立案ができる。症例レポートの作成法を学び、実習に生かすことができる。 国家試験に向け知識の定着を図る。	2後	45	1		○		○				
73	○		LD・SLI・環境要因の展開	LD・SLIに対する評価における分析、見方を学ぶ。それを基にした理解と指導、支援に関する知識・技能・態度を修得する。 環境要因が子どもの育ちに与える影響について学び、その支援にあたる場合の知識・技能・態度を習得する。	2後	45	1		○		○			○	
74	○		運動障害性構音障害の展開	①運動障害性構音障害についての基礎的な知識を理解するとともに、その知識を診断・治療に生かしていくことができる。 ②専門家として必要な態度について理解し、実行することができる。 ③検査演習や訓練演習を通して、技術を身に着けるとともに、症例を念頭においた技術をみにつける。	2後	45	2		○		○			○	
75	○		摂食嚥下障害の展開	摂食嚥下障害の理解で学び得た基本的な概念を基に摂食嚥下の問題点を抽出できるようになる。治療計画を立案し訓練を提供できる知識や技術の獲得を目指します。診療技術だけではなく多職種との連携や社会資源などの知識を様々な症例を通して学び、模擬カンファレンスで評価結果や方針を報告することができるようになる。	2後	45	2		○		○			○	
76	○		評価演習	実習指導者の指導の下でリハビリテーションおよび言語聴覚療法の実際を見学すると共に、職業人、社会人としての態度を学ぶことである。	2後	120	3			○		○			○
77	○		応用言語学	言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修する上で基礎となる言語とコミュニケーションに関する知識・技能・態度を修得する。	3後	30	1	○			○			○	
78	○		社会保障制度(関係法規含む)	・社会保障の全体の仕組みを理解し、個別の保険制度を学ぶ・言語聴覚士に関わる法律や規定を理解する・関連職種に関する理解を深める・実際に働くにあたって必要な法律や規定を知る	3前	15	1	○			○				○

(医療専門課程言語聴覚学科) 令和4年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
79	○			地域言語聴覚療法	言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修する上で基礎となる社会福祉、リハビリテーションに関する基本的知識を修得する。	3前	15	1	○			○		○		
80	○			言語聴覚マネジメントと研究法	組織における役割と求められる行動を修得する。生涯学習する行動を修得する。	3後	15	1	○			○		○		
81	○			拡大代替コミュニケーション学	①コミュニケーション支援のための考え方、概念を学ぶ。②コミュニケーション障害の改善および能力維持、あるいは能力の獲得および発達促進のための様々な代替コミュニケーション手段について概説する。	3前	30	1	○			○			○	
82	○			補聴器人工内耳	聴覚障害および関連障害に関する基本的概念と知識を修得する。	3前	30	1	○			○			○	
83	○			臨床実習Ⅰ	修得した知識・技術・態度を統合して言語聴覚療法の役割・職務を理解し、対象児・者の特徴と問題を把握できる。	3前	160	4				○			○	○
84	○			臨床実習Ⅱ	臨床実習指導者の指導の下、言語聴覚士としての心構えと基礎知識、基礎技術を臨床の場で体験し学習する。本学科臨床実習では、担当症例を通して、情報収集・評価・言語聴覚療法計画立案・言語聴覚療法実施および記録報告等の一連の言語聴覚療法を実践する。	3前	320	8				○			○	○
85		○		臨床技術学Ⅲ	リスク管理を始めとして、臨床実習に臨む上で必須だが、直接教科学習で学ぶ機会の少なかった事項について、実習セミナーの形で学ぶ	3前	30	1				○			○	
86			○	臨床技術学Ⅳ	1. 言語聴覚療法の目的における検査・評価・診断の流れを説明できる。2. あらゆる要因を加味した、言語病理学的診断における根拠を統合して説明できる。3. それぞれの病態や背景にあわせた、治療目標および計画を立案しその根拠について説明できる。4. OSCEの実施により、具体的な臨床像を念頭においた取り組みの必要性を理解し説明することができる。	3後	30	1				○			○	
合計					86科目	2985単位時間 (101単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
各授業科目の総授業回数の3分の2以上出席し、前条第1項の規定においてC評価以上取得した者に対して履修を認定する。卒業は、最終学年次に履修すべき科目（実習を含む）を全て履修している者で学校長が認めた者とする。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。